

# 第95期（平成12年度）中間決算の特徴

---

株式会社 静岡銀行

# 損 益 (連結決算)

## 利益の状況

	12年度中間 (億円)	前年同期比 (億円)	(%)
経常収益	1,546	+288	22.9
経常利益	162	46	22.2
中間純利益	98	31	24.0

### <連結対象会社>

静銀経営コンサルティング(株)、静銀リース(株)、静岡コンピュータサービス(株)  
静銀信用保証(株)、静銀デパートカード(株)、静岡キャピタル(株)、静  
銀静岡浦代理店(株)、静銀地頭方代理店(株)、静銀投資顧  
問(株)、静銀ビジネスサービス(株)、静銀総合サービス(株)、静岡モーゲージサ  
ビス(株)、静岡資産管理(株)、静銀ビジネスクリエイト(株)、欧州静岡銀行

### (1) 連結経常収益 前年同期比 + 288億円増収

静岡銀行グループの経常収益は、静岡銀行での「その他経常収益」や「資金運用収益」を中心に前年同期比 + 288億円増加して1,546億円となりました。「その他経常収益」の増加は、退職給付会計導入に伴う会計基準変更時差異処理のための退職給付信託設定益の計上および株式等売却益の増加等が主因となっています。

(経常費用は退職給付会計による会計基準変更時差異を平成12年度中に一括処理するものとし、当中間期に270億円を計上したことを主因に、前年同期比 + 335億円増加の1,383億円となりました。)

### (2) 連結経常利益 前年同期比 46億円減益

#### 連結中間純利益 同 31億円減益

退職給付会計による会計基準変更時差異の前倒し処理を主因とする経常費用の増加により、連結経常利益は前年同期比 46億円の162億円、連結中間純利益は同 31億円の98億円となりました。

# 損 益 (静岡銀行単体)

## (1) 経常収益 前年同期比 + 289億円増収

退職給付会計導入に伴う会計基準変更時差異処理のための退職給付信託設定益の計上や株式等売却益の増加等を主因として前年同期比 + 289億円増収の1,417億円となりました。  
( 経常費用は退職給付会計による会計基準変更時差異を平成12年度中に一括処理する方針とし、当中間期に270億円を計上したことを主因として前年同期比 + 343億円増加の1,256億円となりました。 )

## (2) 業務純益 前年同期比 24億円減益

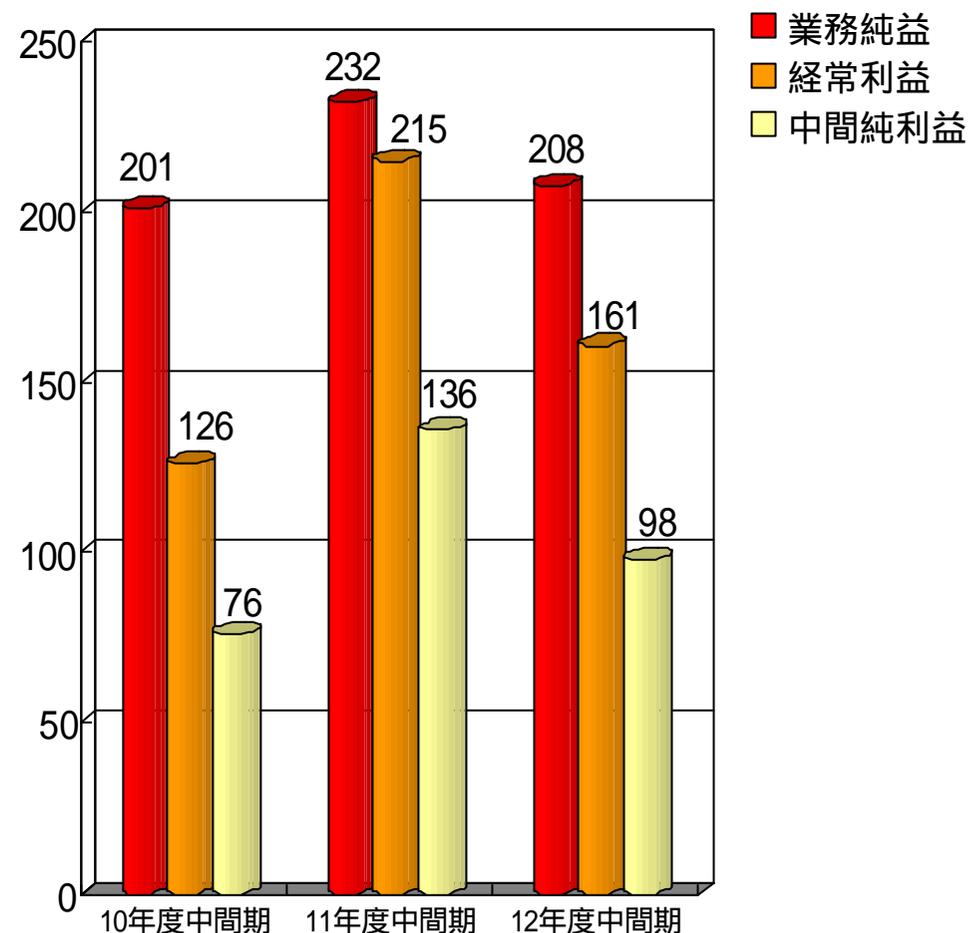
経営合理化の進展による経費削減、国債等債券関係損益の改善などの増益要因はありましたが、資金運用利回りの低下による資金利益の減少、一般貸倒引当金繰入額の増加などにより業務純益は前年同期比 24億円減少し208億円となりました。

## (3) 経常利益 前年同期比 53億円減益

業務純益の減少、退職給付会計導入に伴う会計基準変更時差異の前倒し処理を主因として経常利益は前年同期比 53億円減少し、161億円となりました。

## (4) 中間純利益 前年同期比 38億円減益

経常利益が 53億円減少したことにより中間純利益は前年同期比 38億円の98億円となりました。



# 損 益 (静岡銀行単体)

	12年中間期 (億円)	前年同期比	
		増減額(億円)	増減率(%)
業務粗利益	661	25	3.6
うち資金利益	569	39	6.5
うち役務取引等利益	57	0	1.6
うちその他業務利益	30	14	87.1
経費	438	13	3.0
一般貸倒引当金繰入額	14	12	535.3
業務純益	208	24	10.4
(基礎的業務純益)	192	35	15.3
(一般貸倒引当金繰入前業務純益)	223	11	5.0
(国債等債券関係損益)	31	23	298.5

(注) 基礎的業務純益は、業務純益から国債等債券関係損益および一般貸倒引当金繰入額を控除したもの

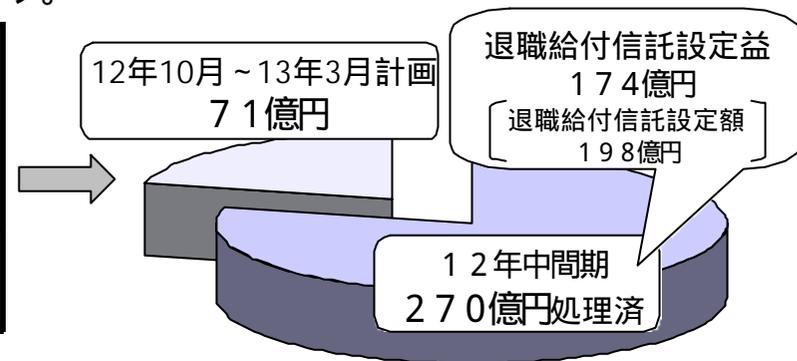
	12年中間期(億円)	前年同期比(億円)	増減率(%)
経常収益	1,417	289	25.6
資金運用収益	936	5	0.6
その他経常収益	345	292	547.8
株式等売却益	159	118	294.5
退職給付信託設定益	174	174	-
経常費用	1,256	343	37.6
資金調達費用	366	44	13.9
営業経費	441	15	3.4
その他経常費用	403	337	512.8
貸倒引当金繰入額	118	73	163.6
(うち個別貸倒引当金繰入額)	104	60	135.5
株式等償却	7	10	58.5
退職給付会計導入変更時差異償却	270	270	-
経常利益	161	53	25.0
税引前中間純利益	159	63	28.6
法人税、住民税及び事業税	142	32	29.9
法人税等調整額	8.1	5.8	261.5
中間利益	98	38	27.9

## 新会計基準の影響と対応（静岡銀行単体）

### 退職給付会計

割引率、期待運用収益率を3.0%で算出した結果、会計基準変更時差異は342億円発生しましたが、12年中間期に退職給付信託の設定等により270億円を処理しました。残額71億円につきましても、12年度中に処理し、財務の健全性を維持していく方針です。

退職給付債務 (退職金 + 企業年金)  1,069億円	年金資産	581億円
	会計基準変更時差異	342億円
	退職給付引当金	145億円



### 金融商品の時価会計

12年度より「金融商品の時価会計」に基づき有価証券、デリバティブ取引の時価評価と減損会計を実施しています。有価証券の時価評価のうち「その他有価証券」については13年度から時価会計適用となりますが、1年前倒しで12年度より適用しています。

「金融商品の時価会計」による期間損益への影響は軽微なものにとどまっています（詳細につきましては「平成12年中間期決算説明資料」の9ページをご覧ください）。

# 資本政策・経営指標

資本効率の向上により、中長期的に株式価値を高めていくことを、資本政策の基本方針としています。

## 自己資本比率（連結ベース）

	12年度中間（％）	自己資本額（億円）
自己資本比率 （うちTier 比率）	12.91 (10.70)	6,145 (5,091)
中核自己資本比率	9.62	4,580

中核自己資本比率 = (Tier - 税効果相当額) ÷ リスクアセット

- B I S 自己資本比率は 12.91%
- 有価証券含み益等を含まない基本的項目であるTier のみで 10.70%、Tier から税効果相当額を控除した中核自己資本比率でも 9.62%と、B I S が定めた国際統一基準である 8% をクリアしています。

## 資本効率

	12年度中間	前年同期比
ROE(中間純利益)	3.86	1.61
1株あたり中間純利益	12.59	4.60
ROA(中間純利益)	0.25	0.11

中間期 R O E は、時価会計の導入に伴う退職給付債務の前倒し処理等を主因とする当期（中間）純利益の減少により、前年同期比 1.61ポイントの 3.86% となりました。

## 自己株式取得・消却実績

	10年度	11年度	12年度中間	9年度以降 累計
取得・消却株式数(千株)	6,633	8,357	13,533	35,749
取得総額(億円)	91	91	121	404

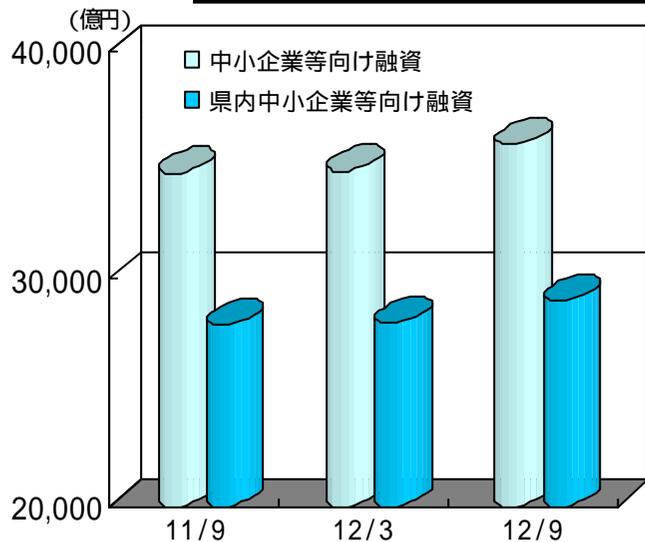
株主の皆さまへの利益還元をはかるため、平成9年度に取締役会決議で可能な自己株式の消却限度を8千万株に定め、以降、毎年継続的に消却を行ってきた結果、12年9月末までに累計で35,749千株を取得・消却しました。

# 貸出金の状況

総貸出金平残は重点セグメントである静岡県内の中小企業向け貸出、消費者ローンを中心に増加しました。

(億円)

	11年度	11年度中間	12年度中間	前年同期比
総貸出金平残	51,052	50,720	51,316	+595
中小企業等向け貸出金	34,730	34,679	35,939	+1,260
うち消費者ローン	11,028	10,909	11,496	+587
静岡県内貸出金平残	33,950	33,748	34,125	+376
県内中小企業等向け貸出金	28,066	27,936	29,042	+1,106
うち県内消費者ローン	9,070	8,947	9,511	+564



中小企業基本法改正により、平成12年度中間期より改正後の定義にて算出しております。



# 預り資産の状況

**預金** 流動預金を中心に総預金平残は前年同期比 + 1,445 億円増加しました。

(億円)

	11年度	11年度中間	12年度中間	前年同期比
総預金平残	65,419	65,450	66,895	+1,445
静岡県内預金平残	52,713	52,675	53,660	+984

## 個人預り資産の内訳

(億円)

	11年9月末	12年3月末	12年9月末	前期比
個人預り資産未残	43,484	44,197	44,846	+649
円貨預金	42,745	43,379	43,313	66
投資信託	26	74	201	+127
外貨預金	63	76	319	+243
国債	650	668	1,013	+345

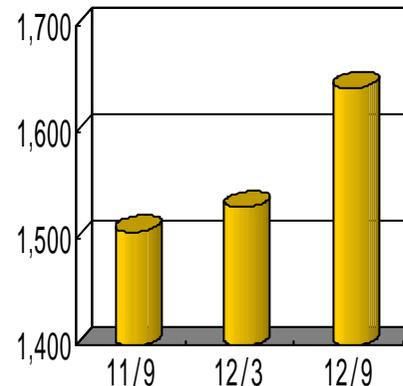
**投資信託** 出張所を含む全店への取扱店舗の拡大、テレホンバンキングでの取扱開始等の販売体制の充実により、販売額で前期比 + 196 億円、預り残高で同 + 164 億円となりました。

(億円)

	11年9月末	12年3月末	12年9月末	前期比
投資信託販売額(6ヵ月間)	42	188	384	+196
投資信託預り残高	36	146	310	+164

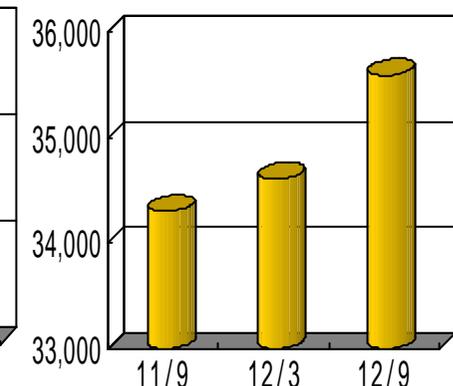
### 行員一人あたり預金等

(百万円)



### 一店舗あたり預金等

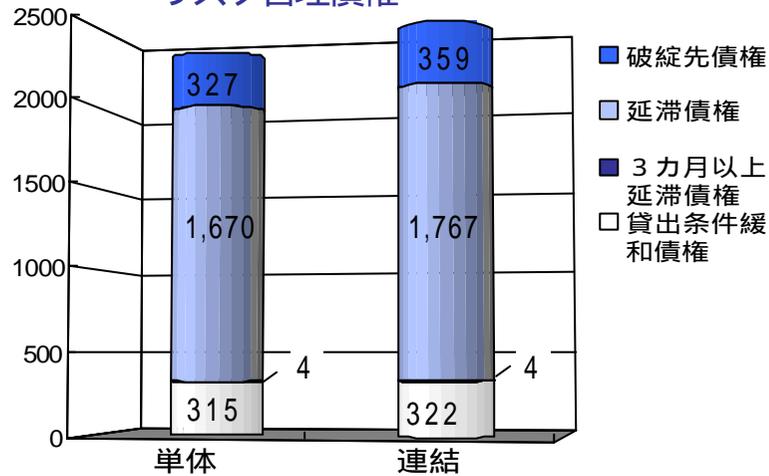
(百万円)



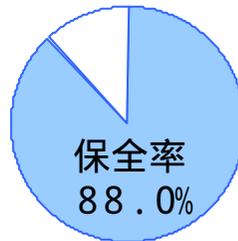
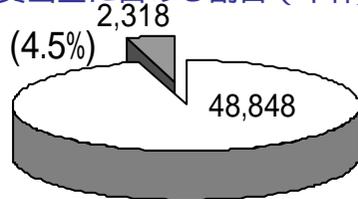
# アセットクオリティ

リスク管理債権額2,318億円(総貸出金の4.5%)、金融再生法開示基準による不良債権額2,321億円(総与信残高の4.4%)と、低水準に推移しています。

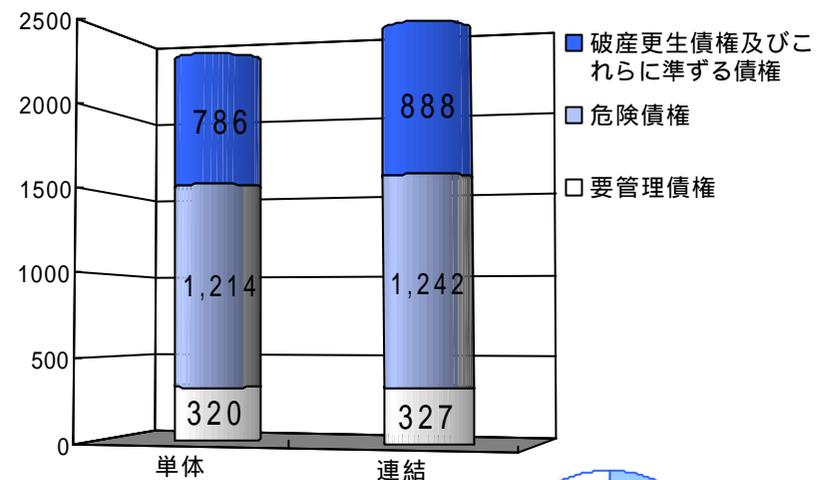
### リスク管理債権



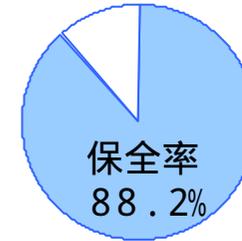
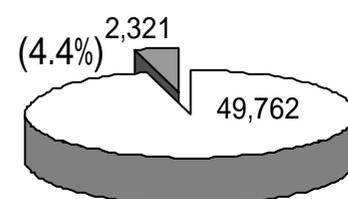
### 総貸出金に占める割合(単体)



### 金融再生法開示基準による不良債権

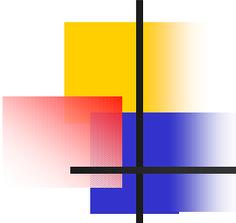


### 総与信に占める割合(単体)



部分直接償却を実施した場合の総貸出金に占めるリスク管理債権の比率は、3.8%となります(単体)。

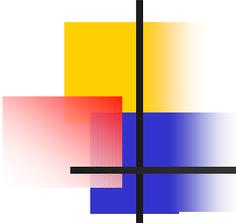
保全率とは、担保・保証、貸倒引当金によりカバーされる比率です。



## 業績予想

<連結>	12年度予想(億円)	前期比(%)
經常収益	2,800	+7.1
經常利益	326	22.7
当期純利益	202	23.2

<静岡銀行単体>	12年度予想(億円)	前期比(%)
經常収益	2,600	+10.0
業務純益	400	17.2
(基礎的業務純益)	401	10.7
(一般貸倒引当金繰入前)	435	12.3
經常利益	320	25.5
当期純利益	200	25.7



# 静岡銀行の動き

## 静銀経営コンサルティング株式会社の営業開始

- ・ 企業の多様なコンサルティングニーズに的確に応えていくため12年7月よりグループ会社「静銀経営コンサルティング株式会社」の営業を開始しました。
- ・ 静銀経営コンサルティング株式会社は銀行内外の組織と連携し「企業向けM & A、株式公開、信託、営業斡旋、財務診断などの経営コンサルティング業務」「個人の財産形成に関するコンサルティング業務」を展開し、静岡銀行グループが一体となってお客様との取引関係を一段と強化していきます。

## 東京三菱銀行と共同出資による証券子会社の設立を決定

- ・ 個人投資家向けの証券リテール業務を主体とした証券子会社を東京三菱銀行と共同出資により設立、平成13年7月開業を計画しています。
- ・ 資本金は20億円、出資比率は当行40%、静銀経営コンサルティング40%、東京三菱銀行20%とし、東京三菱銀行グループによる証券業務運営におけるノウハウ、人材の提供等の協力、支援の下で今後の証券業務の拡大への対応をはかります。

## ATMネットワークの拡充

- ・ 12年10月より静岡県内の信用金庫、県信連、JAとのCD・ATM利用手数料無料化の業務提携を開始し、お客さまが無料をご利用いただけるCD・ATMネットワーク網がこれまでの1,213台から12年10月に2,561台、12年12月にはさらに拡大する予定です。また、郵便貯金とのオンライン提携を12年10月より実施いたしました。